

薬学部薬学科

古尾谷綾子

報告書作成日：2025/2/27

研修日時：2025/2/3 ~ 2025/2/14

研修名：城西大学 2024 年度ハンガリー研修

研修内容：・「短期・長期滞在外国人に配慮した街作り」をテーマとしたグループ研究成果発表とその作成

- ・ハンガリー語講座
- ・ハンガリーの都市における多文化共生と社会的価値観の変遷についての講義
- ・ブダペスト市内見学

以下に、このハンガリー研修を通じて得た学びや気づきについて報告させていただきます。

この研修を通じて、私は多様な文化背景に関する知識を深めるとともに、協創のスキルを学ぶ機会を得ました。そこでは異文化の中での経験を通じて、日本との違いを実感し、異なる価値観を理解する重要性を学びました。

まず、ハンガリーの薬局の夜間営業について知る機会がありました。ハンガリーでは夜間も営業している薬局が一般に存在するという点が、日本と大きく異なっていました。特に、区ごとに当番制で夜間営業を行う薬局が決められていることは、常にどこかの薬局が開いているという安心感がありました。これは、店舗の営業時間外による夜間の医薬品の供給不足を防ぐだけでなく、当番制である故に、夜間に働く人員を最小限に抑えられることで、過剰な労働を防ぐという点で合理的な仕組みであると感じました。



また、夜間の薬局での注文や支払いは、出入りに設置された小窓を通じて行う仕組みになっていました。これは強盗防止のための対策であると考えました。このことから、安全面にも配慮された運営がされていることが分かりました。このように、ハンガリーの薬局の夜間営業システムは、医薬品の安定供給と労働環境の両面において優れた仕組みであり、日本にも導入を検討すべきだと強く思いました。

文化の違いによる戸惑いもありました。例えば、ハンガリーではペットボトルのキャップが完全に取り外せない仕様になっていました。最初はこの仕様が扱いにくいと感じましたが、調べた結果、ポイ捨て防止を目的とした環境対策であることがわかりました。こうした疑問を持つことは多く、その都度インターネットを使って情報を得ましたが、ハンガリーの学生にも積極的に聞くようにしていました。そうすることで、実際の日常生活の中で彼らが

どう感じているかといった、インターネットでは得られない本音を得ることができました。それにより、ハンガリー人の文化的背景や環境への意識についてより深く知ることができたと考えます。

また、こうした状況もありました。ハンガリーの学生とグループ研究成果発表の資料を作成する際、コミュニケーションの多くを英語で行いましたが、発音の違いによって意思疎通に苦勞する場面が何度かありました。その理由として、彼らの「R」の発音が日本語の「ら行」に近く、「W」を「V」と発音することがありました。最初はそのことに気づかず、単語を正確に聞き取れず、会話を難しく感じました。相手の発音の特徴を理解するまで、スムーズに作業を進めることができませんでした。この経験を通じて、単に言語を話せるだけではなく、相手の言語的な特徴や文化的背景を理解することが、円滑なコミュニケーションに不可欠であると実感しました。異なる言語や文化を持つ相手と協力する際には、相手の特性を知り、適応する姿勢が重要であるという学びを得、今後も異文化の人々と協働する機会があった時には、この経験を活かし、より柔軟な対応力を身につけていきたいと思っています。



その他、さまざまな異文化を感じる場面がありましたので、その点について記載いたします。

ハンガリーでは、バスの揺れが日本に比べて非常に大きいと感じました。その理由として、最初はバスのタイヤの緩衝材の影響があると考えました。バスは乗用車に比べて揺れを完全に吸収することが難しいことがあるためです。ですが乗用車を利用した際、揺れの感じ方がバスと変らなかつたことから、バスの揺れの原因が道路そのものにあることに気づきました。この経験は、単に自分の体験を一面的に捉えるのではなく、異なる視点から情報を得ることでより深い理解に繋がるということを教えてくれました。例えば、同じ現象であってもバスと乗用車という異なる乗り物を比較することで、それぞれの特性や周囲の環境がどのように影響を与えるのかが明確になります。このように、多角的な視点を持つことで、より豊かな知識を得ることができると実感しました。

また、公共交通機関の利用方法に関して、改札を通る際に切符を使わず、検札もないことが印象的でした。自由に乗車できる一方で、不正乗車が発覚した場合は厳しい罰則が科される仕組みになっていました。この方法が日本と比べて合理的かどうか、考えさせられる経験でした。

買い物のルールに関して、スーパーの出口では、レシートのバーコードを読み取らなければならない、万引き防止策として有効だと感じました。日本ではあまり見られない仕組みであ

り、確実な防犯対策として興味深く感じました。

通貨の感覚に関して、ハンガリーの通貨であるフォリント (HUF) を日本円に換算する際、私は「フォリント ÷ 2.4」という計算を行いました。現地の物価を正しく理解するためには、日本円に換算せずともフォリントの価値を直感的に判断できるようになる必要があると感じました。

まとめ

この研修を通じて、私は異文化理解の重要性を改めて認識しました。交通インフラの違い、公共のルール、言語の発音、通貨の感覚、環境対策、衛生習慣など、日本とは異なる価値観やシステムを体験することで、視野を広げることができました。これらの経験を今後の学びや交流に活かし、より柔軟に異文化と向き合っていきたいと考えています。

楽しかったー

